

3 あいち森と緑づくり事業アンケート結果

(1) 県民アンケート

1 調査の概要

(1) 調査の目的

あいち森と緑づくり税・事業の事業評価のために、県内の一般県民の税・事業に対する認知度・理解度等の把握をし、調査分析を行い、今後の税・事業の在り方について検討するための基礎資料とする。

(2) 調査の項目

- ① 森と緑の働きについて
- ② 「あいち森と緑づくり税」について
- ③ 人工林整備事業について
- ④ 里山林整備事業について
- ⑤ 都市緑化推進事業について
- ⑥ 環境活動・学習事業について
- ⑦ 普及啓発事業について
- ⑧ 「あいち森と緑づくり事業」の今後について

(3) 調査の設計

- ① 調査地域 愛知県
- ② 調査対象 県内居住の18歳以上の男女
- ③ 標本数 3,000人
- ④ 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- ⑤ 調査方法 郵送法
- ⑥ 調査期間 平成29年7月19日～8月2日

(4) 調査委託先

合同会社KURIO

(5) 回収結果

- ① 標本数 3,000人
- ② 回収数 1,107人 (36.9%)

1

2 調査対象者の属性

【性別】

総数	男性	女性	無回答
1,107人	475人	614人	18人
100.0%	42.9%	55.5%	1.6%

【年齢】

20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	無回答
13人	80人	105人	197人	185人	126人	385人	16人
1.2%	7.2%	9.5%	17.8%	16.7%	11.4%	34.8%	1.4%

【居住地域】

名古屋地域	尾張・海部地域	知多地域	西三河地域	豊田加茂地域	新城設楽地域	東三河地域	無回答
323人	312人	92人	179人	68人	10人	101人	22人
29.2%	28.2%	8.3%	16.2%	6.1%	0.9%	9.1%	2.0%

【職業】

自営業	農林漁業	20人	1.8%
	商工サービス業	45人	4.1%
	自由業	42人	3.8%
勤め人	管理職	62人	5.6%
	専門技術職	177人	16.0%
	事務職	120人	10.8%
	労務職	124人	11.2%
無職	家事専業	243人	22.0%
	学生	25人	2.3%
	その他	212人	19.2%
無回答		37人	3.3%

2

3 サンプルデザイン

- (1) 母集団 愛知県内に居住する18歳以上の男女
- (2) 標本数 3,000
- (3) 地点数 150
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

ア 層化

愛知県内の市町村を、市（名古屋市区）及び郡を単位として、16の調査地区にグループ化した（調査地区区分図のとおり）。さらに、各調査地区を名古屋市、その他の市と郡部（町村）の3つに分類し、それぞれを層とした。

イ 標本数の配分

各層に、その推定母集団数（平成27年10月1日現在の人口）の大きさにより、3,000の標本数を比例配分した。

ウ 抽出の方法

- (ア) 第1次抽出単位となる調査地点として、平成27年国勢調査時に設定された調査区を使用した。
- (イ) 各層における調査地点については、1次調査地点の標本数が20となるように算出し各層内での調査地点が1地点の場合は単純無作為抽出法により抽出、2地点以上となる場合は、「層における調査地区数の合計」÷「層で抽出された調査地点数」＝「抽出間隔」を算出し、等間隔抽出法により抽出した。
- (ウ) 各調査地点における対象者の抽出は、選挙人名簿により等間隔抽出法で抽出した。

3

調査地区区分図



地域	地区番号	地区名称（市（区）、郡）	備考（集計区分）
名古屋地域	1	名古屋市東部地区（千種区・東区・守山区・名東区）	名古屋
	2	名古屋市南東部地区（昭和区・瑞穂区・緑区・天白区）	
	3	名古屋市北西部地区（北区・西区・中村区・中区）	
	4	名古屋市南西部地区（熱田区・中川区・港区・南区）	
尾張地域	5	海部津島地区（津島市・愛西市・弥富市・あま市・海部郡）	尾張・海部
	6	一宮地区（一宮市・稲沢市）	
	7	大山江南地区（大山市・江南市・岩倉市・丹羽郡）	
	8	春日井小牧地区（春日井市・小牧市・清須市・北名古屋・西春日井郡）	
知多地域	9	尾張東部地区（瀬戸市・尾張旭市・豊明市・日進市・長久手市・愛知郡）	知多
	10	知多地区（半田市・常滑市・東海市・大府市・知多市・知多郡）	
西三河地域	11	豊田加茂地区（豊田市・みよし市）	豊田加茂
	12	岡崎額田地区（岡崎市・額田郡）	西三河
	13	衣浦東部幡豆地区（碧南市・刈谷市・安城市・西尾市・知立市・高浜市）	
東三河地域	14	東三河山間地区（新城市・北設楽郡）	新城設楽
	15	蒲郡豊川地区（豊川市・蒲郡市）	東三河
	16	豊橋地区（豊橋市・田原市）	

4

調査地区別標本・調査地点数一覧

	名古屋市区	その他の市	郡部(町村)	計	
名古屋市区	名古屋市東部地区	476,455		476,455	
		220		240	
		12		12	
	名古屋市南東部地区	502,932		502,932	
		240		240	
名古屋市区	名古屋市北西部地区	453,798		453,798	
		11		220	
名古屋市区	名古屋市南西部地区	474,912		474,912	
		220		240	
東海圏	海部津島地区		208,544	58,504	267,048
			100	40	140
			5	2	7
	一宮地区	419,423			419,423
		220			200
		10			10
	大江山南地区	179,783	45,645		225,428
		100	40		140
		5	1		6
	春日井小牧地区	491,015	12,091		503,106
		240	0		240
		12	0		12
尾張東部地区		339,750	33,417	373,167	
		180	20	200	
		8	1	9	
知多地区		368,216	130,843	499,059	
		180	100	240	
	9	3		12	
豊田加茂地区		386,247		386,247	
		180		200	
		10		10	
	岡崎額田地区	305,199	30,981	336,180	
	140	20	160		
	7	1	8		
衣浦東部幡豆地区		550,452		550,452	
		240		280	
	14		14		
東三河山間地区		39,400	8,611	48,011	
		20	0	20	
		1	0	1	
蒲郡豊川地区		213,351		213,351	
		120		100	
	5		5		
豊橋地区		353,986		353,986	
		180		180	
	9		9		
計	1,908,097	3,855,366	320,092	6,083,555	
	940	1,900	160	3,000	
	47	95	8	150	

上段：推定母集団
中段：標本数
下段：調査地点数

調査地点一覧

		地点名	対象数	
名古屋市区	名古屋市中区	錦池通4丁目	20	
		竹越2丁目	20	
		白鷺1丁目	20	
		明倫町	20	
		大森1丁目	20	
		元郷2丁目	20	
	名古屋市中東区	留代2丁目	20	
		翠松園2丁目	20	
		梅森坂2丁目	20	
		高針4丁目	20	
		牧の原1丁目	20	
		川名山町	20	
名古屋市中東区	瓜路通3丁目	20		
	片狭町3丁目	20		
	中山町1丁目	20		
	旭出1丁目	20		
	段の風3丁目	20		
	徳重3丁目	20		
名古屋市中東区	有松南	20		
	橋保園	20		
	緑田西1丁目	20		
	中平	20		
	緑田東	20		
	大杉2丁目	20		
名古屋市中東区	神鳴町	20		
	福徳町7丁目	20		
	江崎町	20		
	城西4丁目	20		
	比良	20		
	大宮町1丁目	20		
名古屋市中東区	太陽通4丁目	20		
	二ツ橋町	20		
	三の丸1丁目	20		
	松原2丁目	20		
	尾張町	20		
	一色新町	20		
名古屋市中東区	五月常通	20		
	中郷1丁目	20		
	八幡町1丁目	20		
	水里1丁目	20		
	清若町	20		
	正徳町1丁目	20		
名古屋市中東区	西川町2丁目	20		
	観音町5丁目	20		
	太白町1丁目	20		
	松城町1丁目	20		
	尾張町	20		
	三好町	20		
東海圏	海部津島地区	津島市	橋詰町2丁目	20
		愛西市	大井町	20
		弥生市	櫻之上町	20
		あま市	甚目寺	20
		七宝町	七宝町南三丁目	20
		海部郡大治町	大字北陽橋	20
	一宮地区	海部郡蟹江町	北神原町2丁目	20
		東郷町		20
		大志1丁目		20
		光明寺字神明前		20
		浅井町江森		20
		千秋町天摩		20
春日井小牧地区	春日井市	稲穂1丁目	20	
	藤子安舞町		20	
	藤子安舞町		20	
	上坂町2丁目		20	
	大字華越		20	
	山王町		20	
尾張東部地区	江南市	藤ヶ丘5丁目	20	
	中央町		20	
	上小口3丁目		20	
	前原町1丁目		20	
	船原町1丁目		20	
	小崎町6丁目		20	
豊田加茂地区	豊田市	藤原町	20	
	小水田町		20	
	坂下町1丁目		20	
	大字持中		20	
	小水西		20	
	川西		20	
岡崎額田地区	清須市	穂根3丁目	20	
	北名古屋	龍之庄	20	
	野橋山神		20	
	瀬戸市	藤神町	20	
	ささぎ台		20	
	新田町		20	
尾張旭市	北本郷7丁目	4丁目	20	
	豊田	新栄町5丁目	20	
	岩崎町梅ノ木		20	
	赤池3丁目		20	
	秋ヶ池		20	
	大字猪橋		20	
豊田加茂地区	長久手市	秋ヶ池	20	
	愛知郡東郷町	大字猪橋	20	
	半田市	有徳町2丁目	20	
	飛島町		20	
	神岡町3丁目		20	
	富永町内堤		20	
知多地区	東海市	富永/台6丁目	20	
	横橋町		20	
	吉川町1丁目		20	
	梅が丘		20	
	長瀬3丁目		20	
	大字植大		20	
知多郡	知多郡久比町	大字植大	20	
	知多郡知多町	大字大井	20	
	河和台1丁目		20	

		地点名	対象数
名古屋市区	豊田加茂地区	権町4丁目	20
		小坂本町6丁目	20
		田代町	20
		安田町2丁目	20
		横山町4丁目	20
		森町8丁目	20
	みよし市	御幸本町1丁目	20
		迫町	20
		藤原町	20
		三好町東山	20
		伊賀新町	20
		真空町	20
岡崎額田地区	本町通字2丁目	20	
	若松東2丁目	20	
	大樹寺1丁目	20	
	下和田町	20	
	牧平町字岩坂	20	
	大字深溝	20	
春日井小牧地区	旭町3丁目	20	
	大字町	20	
	安濃町	20	
	一里山町	20	
	今池町1丁目	20	
	花ノ木町	20	
安城市	根崎町	20	
	三河安城町	20	
	天神町	20	
	末広町	20	
	つくしが丘	20	
	一色町佐久藤	20	
知立市	南瀬2丁目	20	
	青木町3丁目	20	

		地点名	対象数	
東海圏	知立市	新城市	中守利	20
		豊橋市	明野町3丁目	20
			三蔵子町	20
			当古町	20
			内宿町	20
			大坂町西原敷	20
	東田中ノ町		20	
	田原市	若津町	20	
		風口1丁目	20	
		多米西町	20	
		鎌町	20	
		東小幡野2丁目	20	
前田町		20		
豊橋市	森岡町	20		
	福江町	20		

4 この報告書のみかた

- ・ 回答率(%)は、小数第2位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合があります。また、小計についても同様に異なる場合があります。
- ・ 1人の対象者に複数の回答を認めたものについては、その項目を選んだ人が回答者全体に占める割合を表しており、通常その比率の合計は100%を超えます。
- ・ 調査結果については統計上多少の誤差(標本誤差)が生じることがあり、調査結果をみる場合には、次のような一定の幅をもたせてみる必要があります。
- ・ 標本誤差は、次の式で算出される。

$$\text{標本誤差}(\%) = \pm 2 \sqrt{\frac{P(100-P)}{N}}$$

P: 回答率(%)
N: 回答者数(人)

【標本誤差早見表（主なもの）】

単位：%

	N 回答者数 (人)	P回答率 (%)										
		5又は 95	10又は 90	15又は 85	20又は 80	25又は 75	30又は 70	35又は 65	40又は 60	45又は 55	50	
総数	1107	1.9	2.6	3.0	3.4	3.7	3.9	4.1	4.2	4.2	4.3	
性別	男性	475	2.8	3.9	4.6	5.2	5.6	5.9	6.2	6.4	6.5	
	女性	614	2.5	3.4	4.1	4.6	4.9	5.2	5.4	5.6	5.7	
年齢別	20歳未満	13	17.1	23.5	28.0	31.4	34.0	35.9	37.4	38.4	39.0	
	20歳～29歳	80	6.9	9.5	11.3	12.6	13.7	14.5	15.1	15.5	15.7	
	30歳～39歳	105	6.0	8.3	9.9	11.0	12.0	12.6	13.2	13.5	13.7	
	40歳～49歳	197	4.4	6.0	7.2	8.1	8.7	9.2	9.6	9.9	10.0	
	50歳～59歳	185	4.5	6.2	7.4	8.3	9.0	9.5	9.9	10.2	10.3	
	60歳～64歳	126	5.5	7.6	9.0	10.1	10.9	11.5	12.0	12.3	12.5	
	65歳以上	385	3.1	4.3	5.1	5.8	6.2	6.6	6.9	7.1	7.2	
地域別	名古屋地域	323	3.4	4.7	5.6	6.3	6.8	7.2	7.5	7.7	7.8	
	尾張・海部地域	312	3.5	4.8	5.7	6.4	6.9	7.3	7.6	7.8	8.0	
	知多地域	92	6.4	8.8	10.5	11.8	12.8	13.5	14.1	14.4	14.7	
	西三河地域	179	4.6	6.3	7.5	8.5	9.2	9.7	10.1	10.4	10.5	
	豊田加茂地域	68	7.5	10.3	12.2	13.7	14.9	15.7	16.4	16.8	17.1	
	新城設楽地域	10	19.5	26.8	31.9	35.8	38.7	41.0	42.7	43.8	44.5	
	東三河地域	101	6.1	8.4	10.0	11.3	12.2	12.9	13.4	13.8	14.0	
	自営業	107	6.0	8.2	9.8	10.9	11.8	12.5	13.0	13.4	13.6	
職業別	勤め人	483	2.8	3.9	4.6	5.1	5.6	5.9	6.1	6.3	6.4	
	無職	480	2.8	3.9	4.6	5.2	5.6	5.9	6.2	6.3	6.5	

調査結果

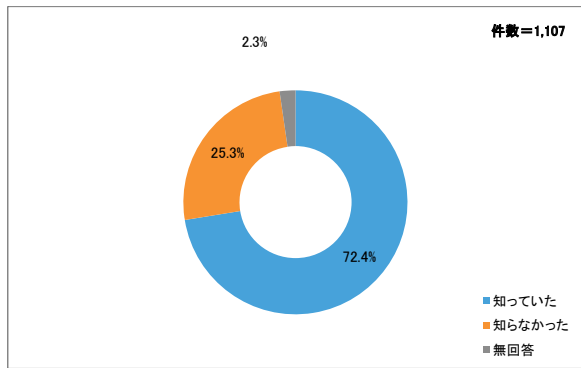
9

10

I 森と緑の働きについて

(1) 森と緑の公益的機能の認知度

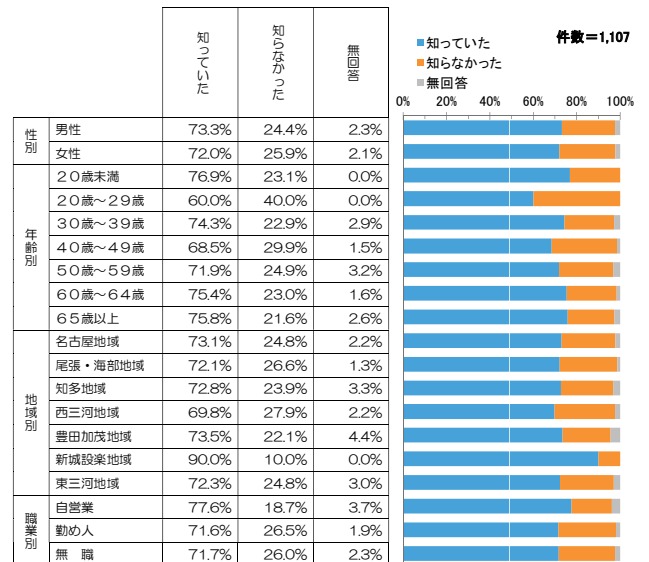
問1 森と緑は、環境の保全や災害の防止など様々な公益的機能により、私たちの暮らしを支えてくれています。あなたは、このことについて知っていましたか。



森と緑の公益的機能について、「知っている」と答えた人の割合が72.4%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は25.3%となっている。

11

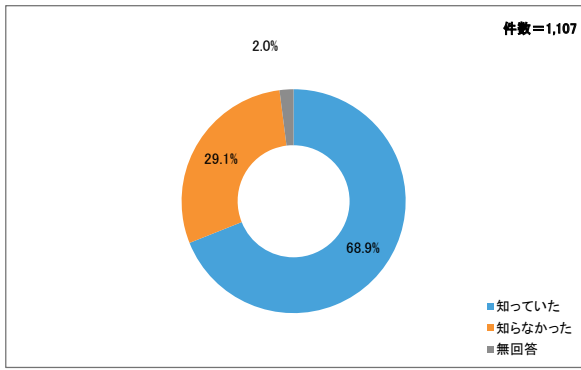
森と緑の公益的機能の認知度（性別、年齢別、地域別、職業別）



12

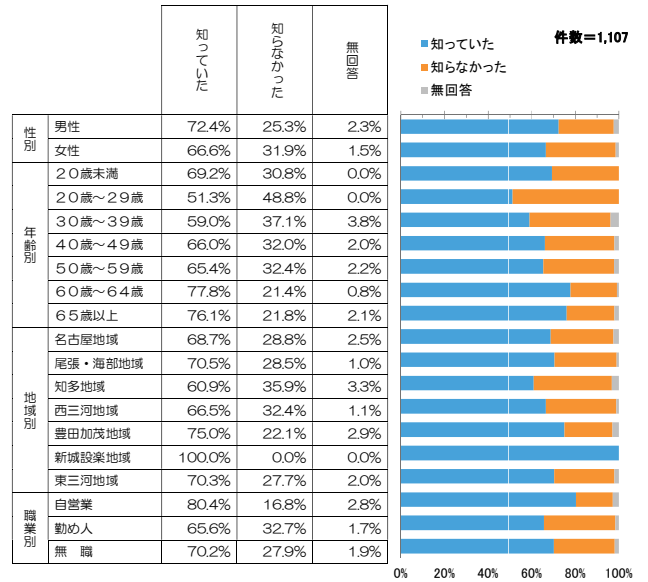
(2) 森と緑の公益的機能の低下に対する意識

問2 近年、木材価格の低迷により、森林所有者による人工林の手入れが不足したり、開発等により都市の緑が減少するなど、森と緑の持つ様々な公益的機能がだんだん低下していきまることが心配されています。
あなたは、このことを知っていましたか。



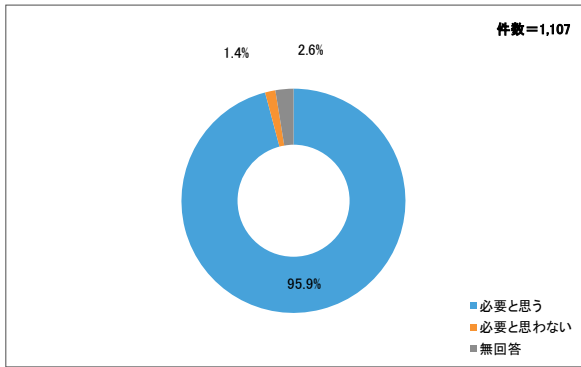
森や緑の公益的機能の低下について、「知っていた」と答えた人の割合が68.9%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は29.1%となっている。

森と緑の公益的機能の低下に対する意識（性別、年齢別、地域別、職業別）



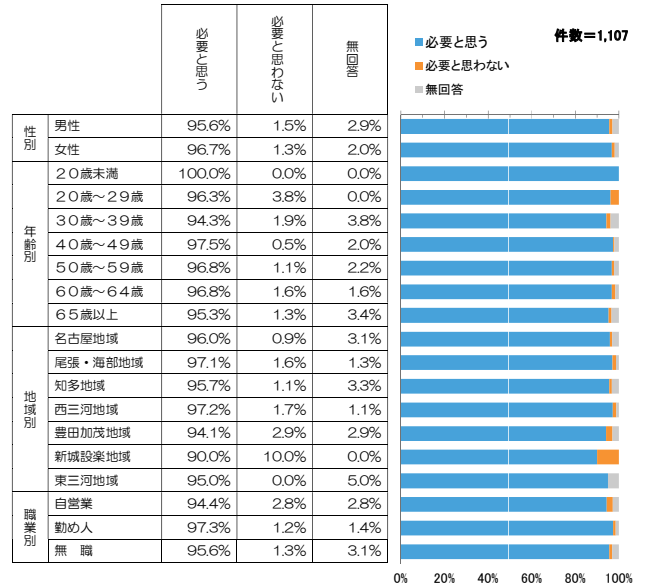
(3) 健全な森や緑を後世に引き継ぐことの必要性

問3 将来に向けて健全な森と緑を引き継いでいくことについて、必要と思いますか。



健全な森や緑を後世に引き継ぐことの必要性について、「必要と思う」と答えた人の割合が95.9%であったのに対し、「必要と思わない」と答えた人の割合は1.4%となっている。

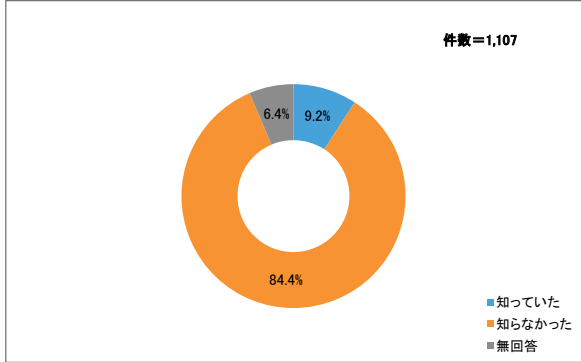
健全な森や緑を後世に引き継ぐことの必要性（性別、年齢別、地域別、職業別）



II 「あいち森と緑づくり税」について

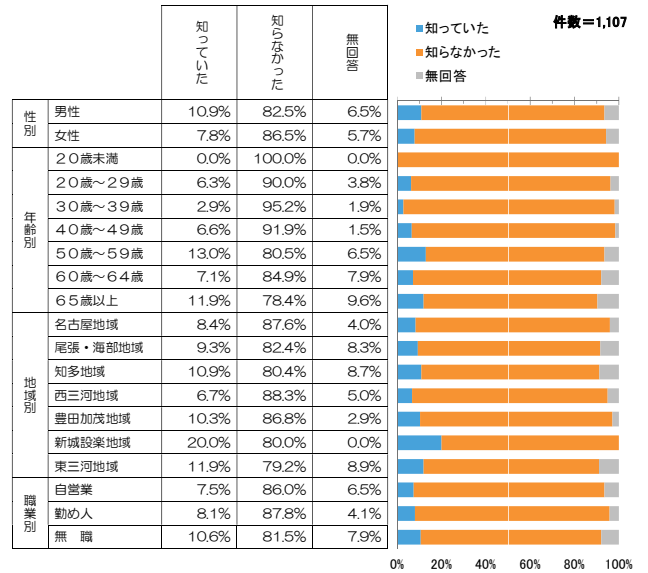
(1) 「あいち森と緑づくり税」の認知度

問1 このアンケート調査の前に「あいち森と緑づくり税」のことを知っていましたか。



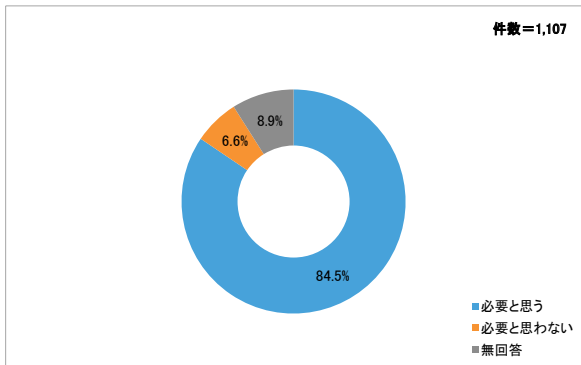
「あいち森と緑づくり税」について、「知っていた」と答えた人の割合が 9.2%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は 84.4%となっている。

「あいち森と緑づくり税」の認知度（性別、年齢別、地域別、職業別）



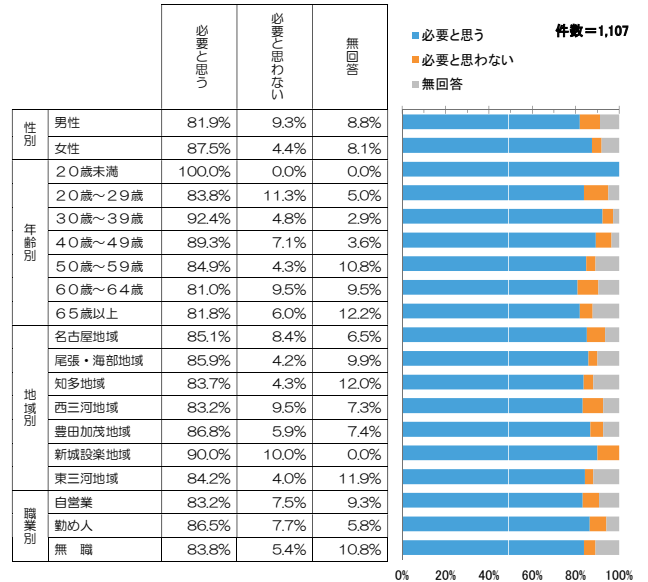
(2) 「あいち森と緑づくり事業」の取組の必要性

問2 「あいち森と緑づくり税」を使った人工林の間伐や都市緑化などの森と緑を守り育てる取組を必要と思いませんか。



「あいち森と緑づくり事業」の取組の必要性について、「必要と思う」と答えた人の割合が 84.5%であったのに対し、「必要と思わない」と答えた人の割合は 6.6%となっている。

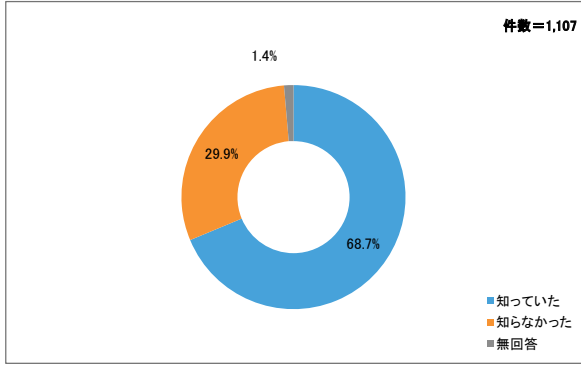
「あいち森と緑づくり事業」の取組の必要性（性別、年齢別、地域別、職業別）



Ⅲ 人工林整備事業について

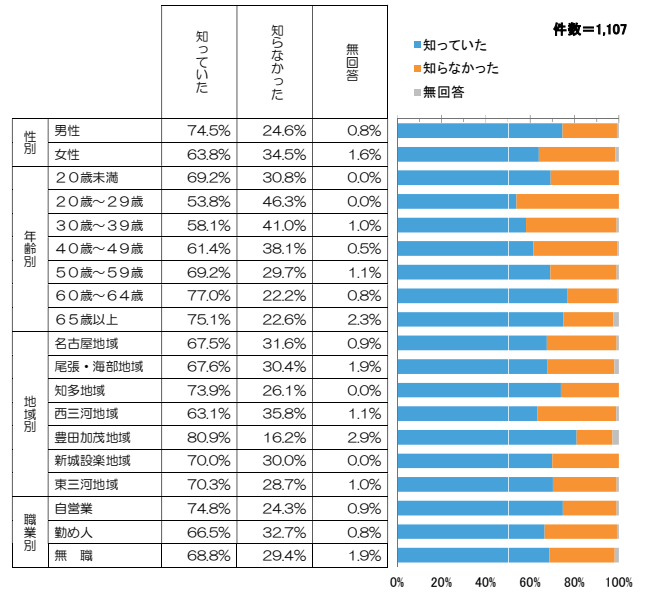
(1) 人工林の間伐と公益的機能について

問1 間伐は、森林（人工林）の公益的機能を高めることを知っていましたか。



人工林の間伐と公益的機能について、「知っていた」と答えた人の割合が68.7%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は29.9%となっている。

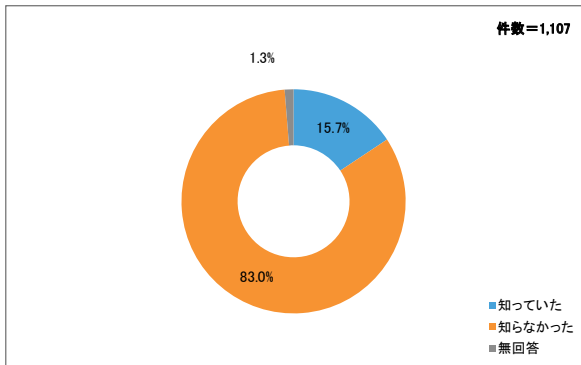
人工林の間伐と公益的機能について（性別、年齢別、地域別、職業別）



0% 20% 40% 60% 80% 100%

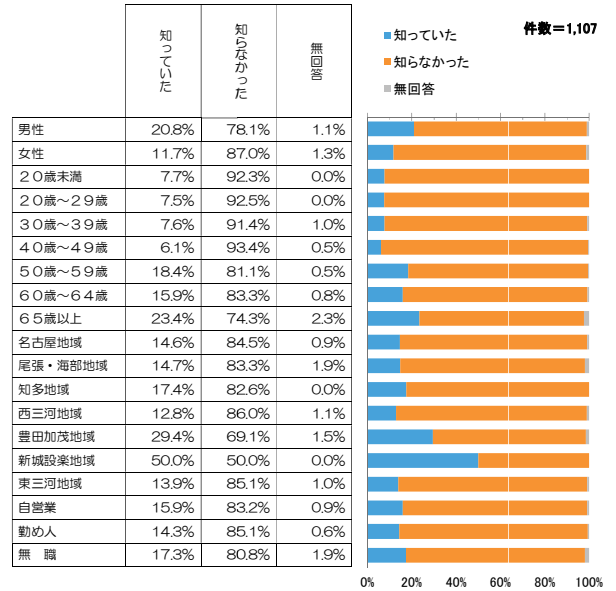
(2) 人工林整備事業の認知度

問2 あいち森と緑づくり事業で、県内の手入れの遅れた人工林の間伐していることを知っていますか。



人工林整備事業について、「知っていた」と答えた人の割合が15.7%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は83.0%となっている。

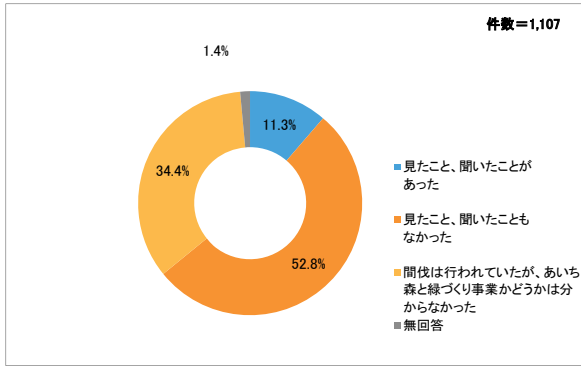
人工林整備事業の認知度（性別、年齢別、地域別、職業別）



0% 20% 40% 60% 80% 100%

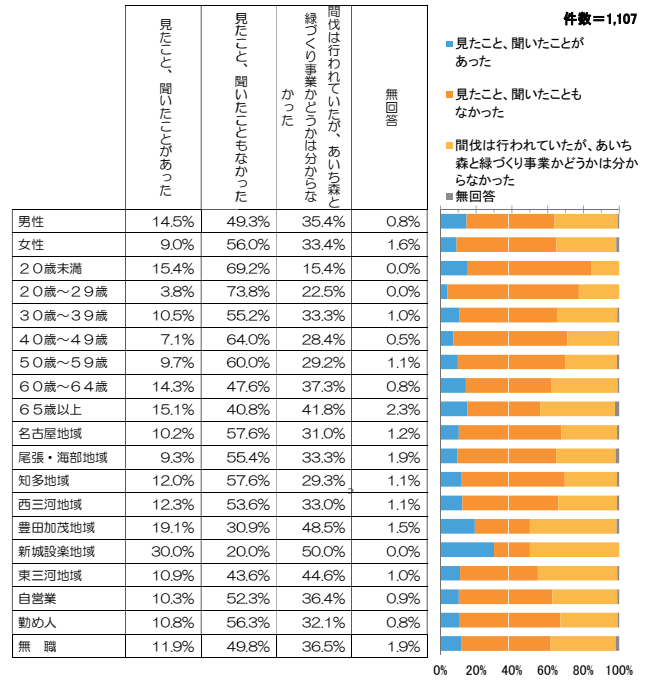
(3) 「あいち森と緑づくり事業」による間伐の認知度

問3 あいち森と緑づくり事業による人工林の間伐を、見たこと、聞いたことがありましたか。



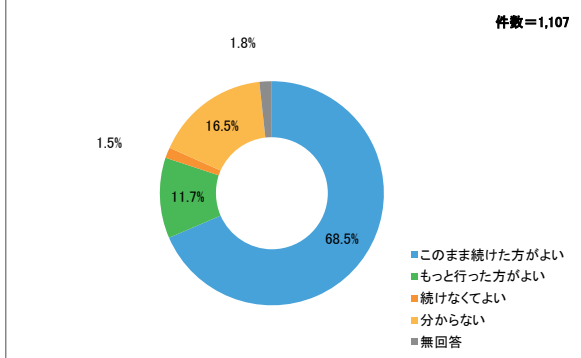
あいち森と緑づくり事業による間伐について、「見たことも聞いたこともなかった」と答えた人の割合が52.8%と最も高く、続いて「間伐は行われていたが、あいち森と緑づくり事業かどうかは分からなかった」(34.4%)、「見たこと、聞いたことがあった」(11.3%)の順になっている。

「あいち森と緑づくり事業」による間伐の認知度（性別、年齢別、地域別、職業別）



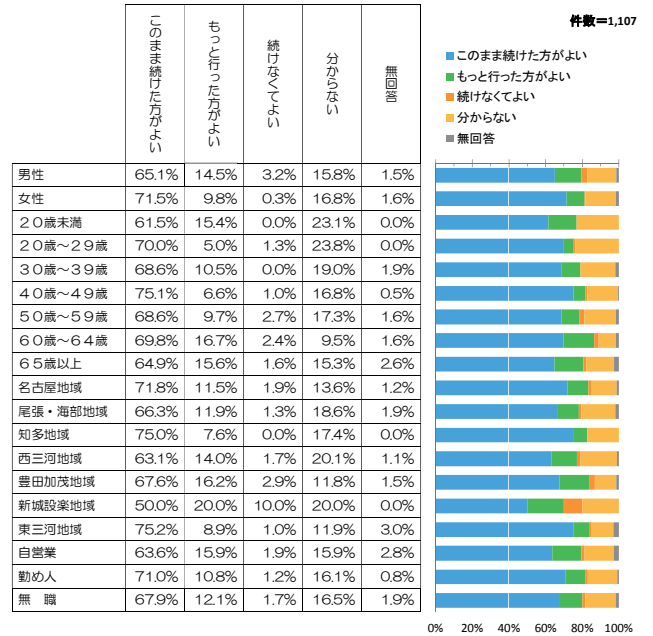
(4) 人工林整備事業の継続について

問4 あいち森と緑づくり事業で今後も人工林の間伐を続けた方がよいと思いますか。



人工林整備事業の継続について、「このまま続けた方がよい」(68.5%)と「もっと行った方がよい」(11.7%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が80.2%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は1.5%となっている。

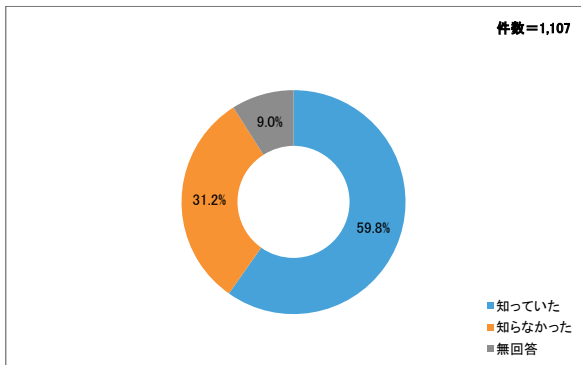
人工林整備事業の継続について（性別、年齢別、地域別、職業別）



IV 里山林整備事業について

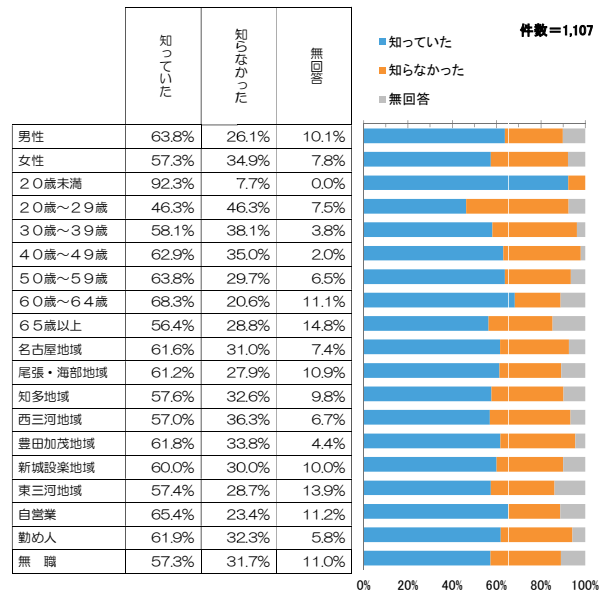
(1) 里山林整備による公益的機能回復の必要性の認知度

問1 生活環境の保全や災害の防止、生物多様性の保全などの公益的機能を回復させるため、里山林を整備する必要があることを知っていましたか。



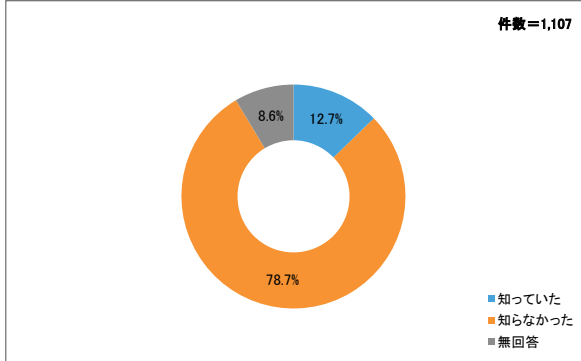
里山林整備による公益的機能回復の必要性の認知度について、「知っていた」と答えた人の割合が59.8%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は31.2%となっている。

里山林整備による公益的機能回復の必要性の認知度（性別、年齢別、地域別、職業別）



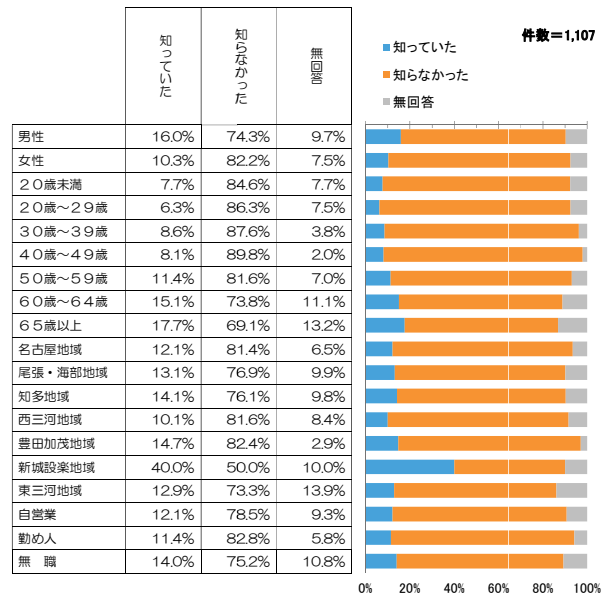
(2) 里山林整備事業の認知度

問2 あいち森と緑づくり事業で、里山林の整備をしていることを知っていましたか。



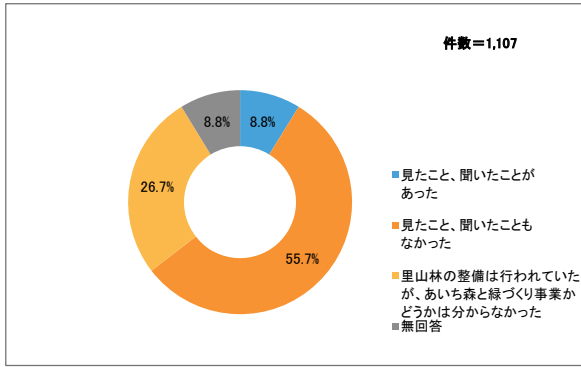
里山林整備事業について、「知っていた」と答えた人の割合が12.7%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は78.7%となっている。

里山林整備事業の認知度（性別、年齢別、地域別、職業別）



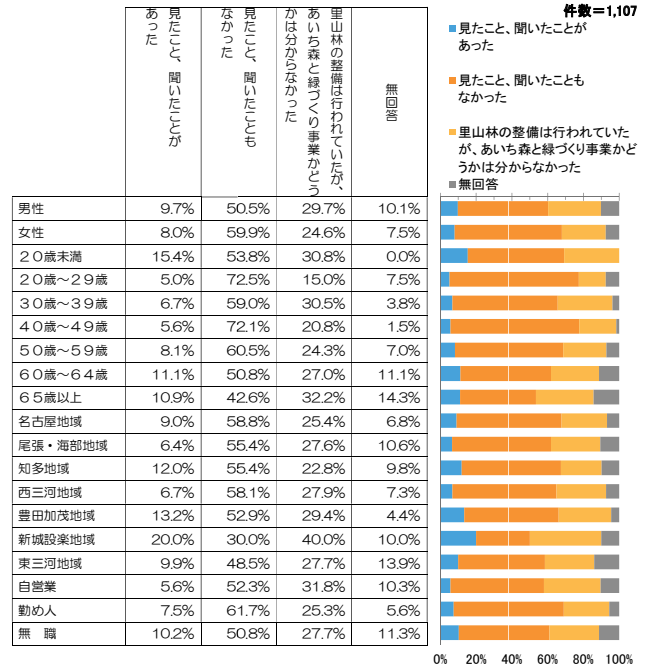
(3) 「あいち森と緑づくり事業」による里山林整備の認知度

問3 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備を、見たこと、聞いたことがありましたか。



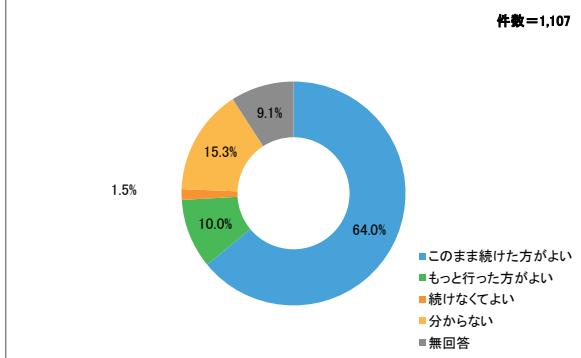
あいち森と緑づくり事業による里山林整備について、「見たことも聞いたこともなかった」と答えた人の割合が55.7%と最も高く、続いて「里山林の整備は行われていたが、あいち森と緑づくり事業かどうかは分からなかった」(26.7%)、「見たこと、聞いたことがあった」(8.8%)の順になっている。

「あいち森と緑づくり事業」による里山林整備の認知度 (性別、年齢別、地域別、職業別)



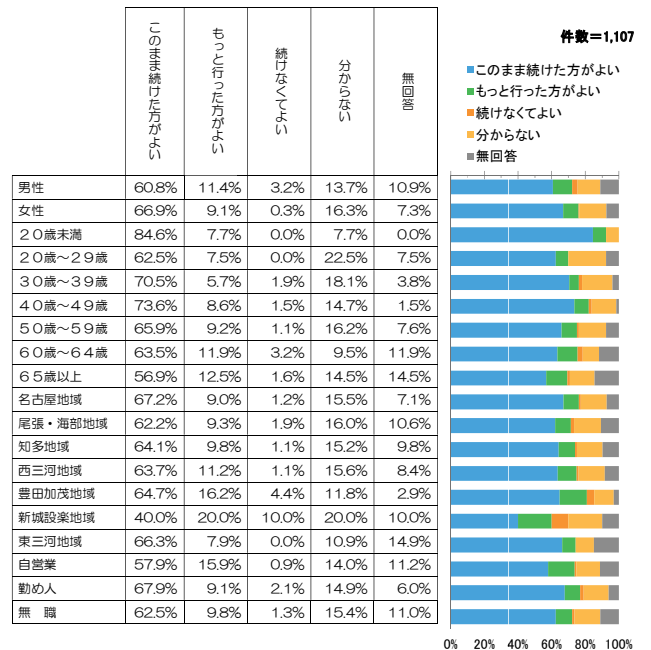
(4) 里山林整備事業の継続について

問4 あいち森と緑づくり事業で今後も里山林の整備を続けた方がよいと思いますか。



里山林整備事業の継続について、「このまま続けた方がよい」(64.0%)と「もっと行った方がよい」(10.0%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が74.0%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は1.5%となっている。

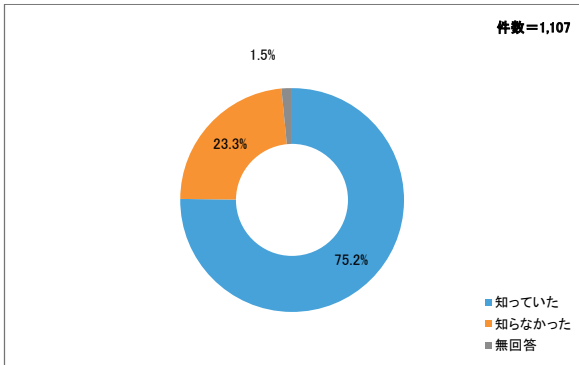
里山林整備事業の継続について (性別、年齢別、地域別、職業別)



V 都市緑化推進事業について

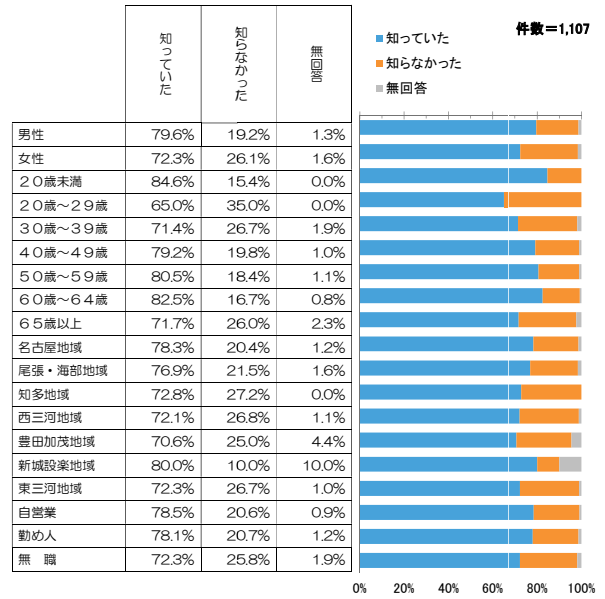
(1) 都市の緑の公益的機能の認知度

問1 都市の緑には「ヒートアイランド現象の緩和」「生物多様性の保全」「火災延焼防止」などの多様な機能があることを知っていましたか。



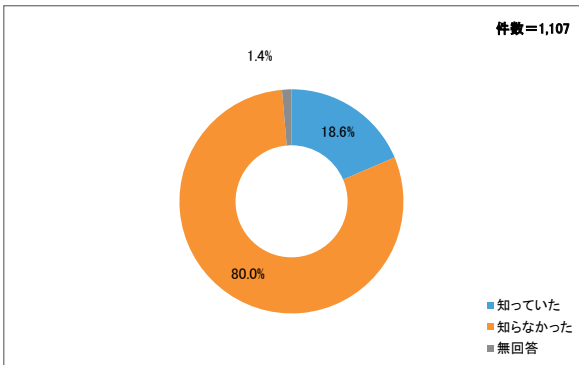
都市の緑の公益的機能の認知度について、「知っていた」と答えた人の割合が75.2%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は23.3%となっている。

都市の緑の公益的機能の認知度 (性別、年齢別、地域別、職業別)



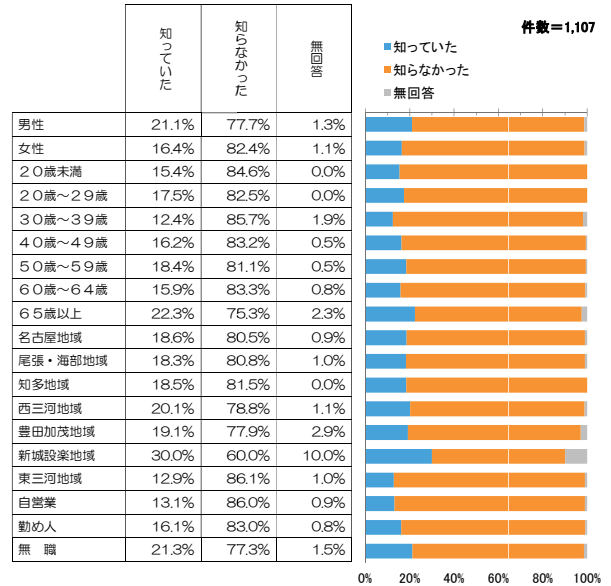
(2) 都市緑化推進事業の認知度

問2 あいち森と緑づくり事業で、都市の緑を増やす取組を行っていることを知っていましたか。



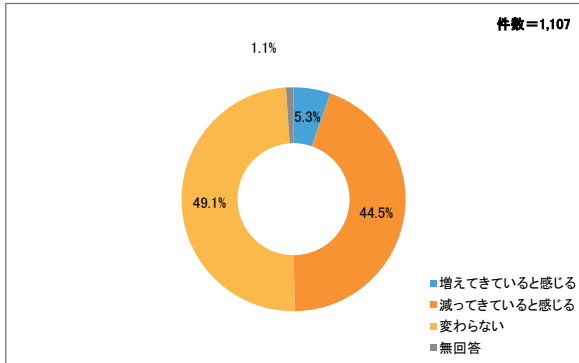
都市緑化推進事業について、「知っていた」と答えた人の割合が18.6%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は80.0%となっている。

都市緑化推進事業の認知度 (性別、年齢別、地域別、職業別)



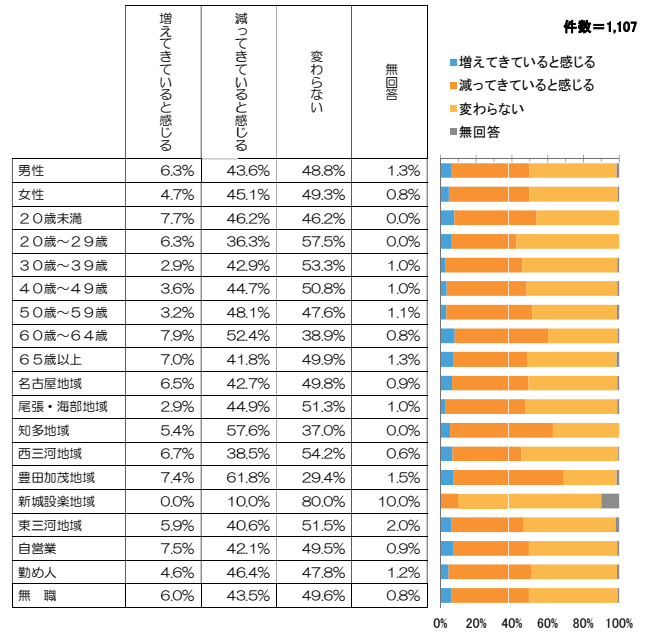
(3) 住まいの周辺の緑について

問3 あなたの住まいの周辺(半径1~2km程度)の緑についてどのように感じますか。



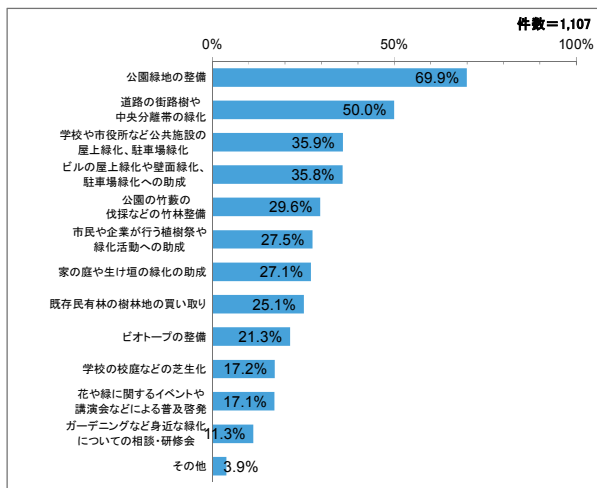
住まいの周辺の緑について、「変わらない」と答えた人の割合が49.1%と最も高く、続いて「減ってきていると感じる」(44.5%)、「増えてきていると感じる」(5.3%)の順になっている。

住まいの周辺の緑について(性別、年齢別、地域別、職業別)



(4) 都市の緑を増やしていくための取組について

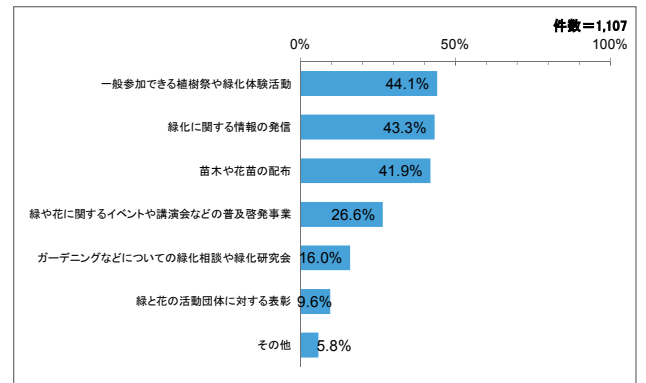
問4 今後、さらに都市の緑を良くしていくために、愛知県や市町村はどのような取組を行えばよいと思いますか。(複数回答可)



都市の緑を増やしていくための取組について、「公園緑地の整備」と答えた人の割合が69.9%と最も高く、続いて「道路の街路樹や中央分離帯の緑化」(50.0%)、「学校や市役所など公共施設の屋上緑化、駐車場緑化」(35.9%)の順になっている。

(5) 都市の緑に関心を持つための取組について

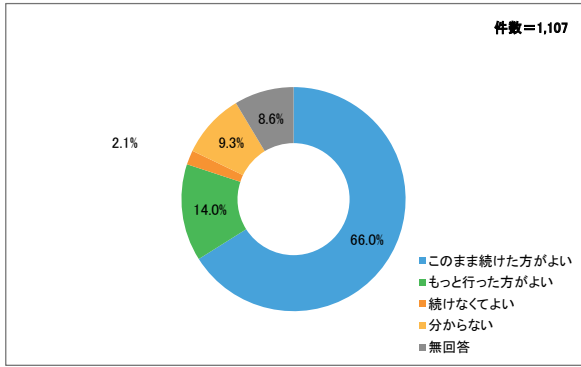
問5 あなたが、今よりも都市の緑に関心や関わりを持つためには、どのような取組が効果的だと思いますか。



都市の緑に関心を持つための取組について、「一般参加できる植樹祭や緑化体験活動」と答えた人の割合が44.1%と最も高く、続いて「緑化に関する情報の発信」(43.3%)、「苗木や花苗の配布」(41.9%)の順になっている。

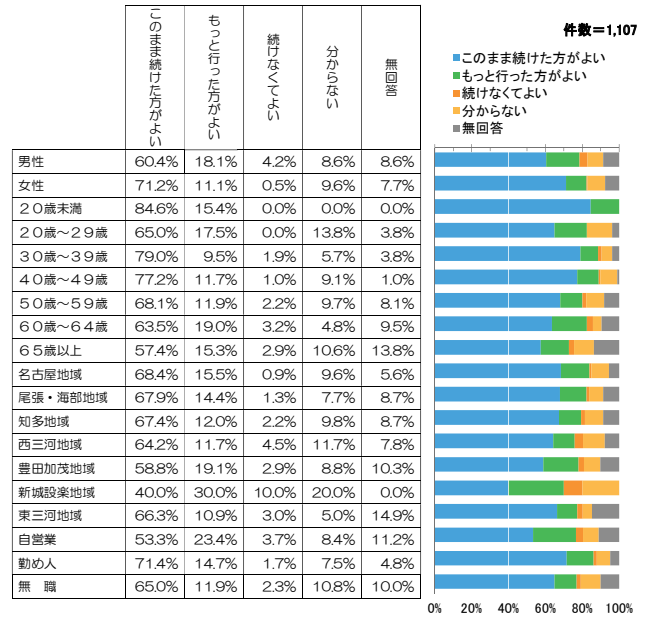
(6) 都市緑化推進事業の継続について

問6 あいち森と緑づくり事業で今後も都市の緑を増やす取組を続けた方がよいと思えますか。



都市緑化推進事業の継続について、「このまま続けた方がよい」(66.0%)と「もっと行った方がよい」(14.0%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が80.0%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は2.1%となっている。

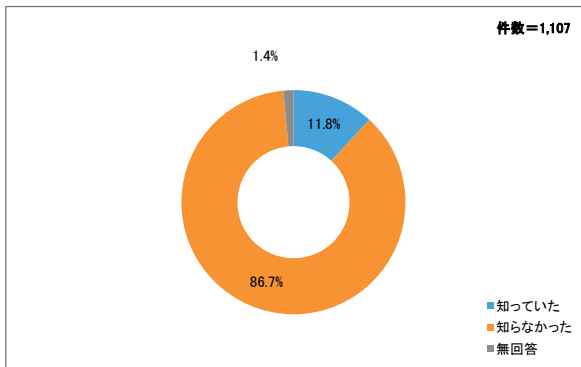
都市緑化推進事業の継続について (性別、年齢別、地域別、職業別)



VI 環境活動・学習推進事業について

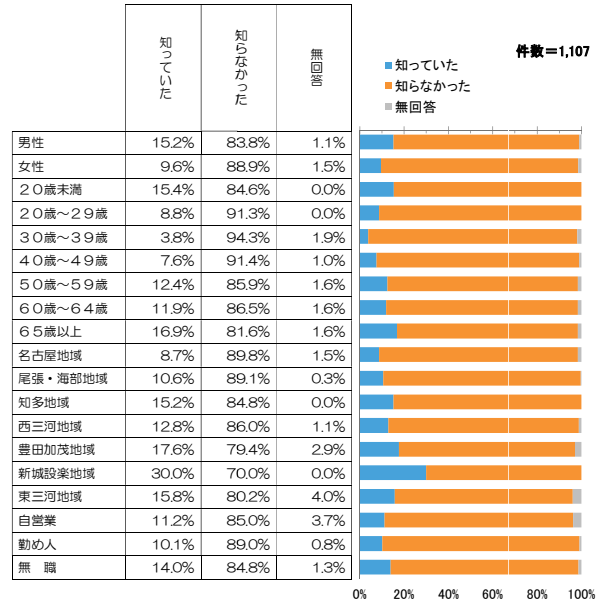
(1) 環境活動・学習推進事業についての認知度

問1 里地・里山などで間伐、下草刈り、植樹などを行う「森と緑の保全活動」や、森林作業の体験教室や自然観察会といった「環境学習」を、あいち森と緑づくり事業で支援していることを知っていましたか。



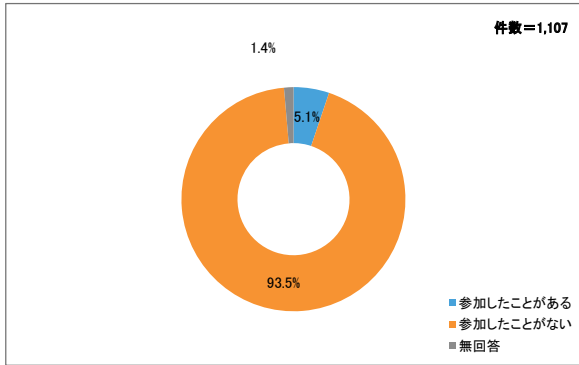
環境活動・学習推進事業について、「知っていた」と答えた人の割合が11.8%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は86.7%となっている。

環境活動・学習事業についての認知度 (性別、年齢別、地域別、職業別)



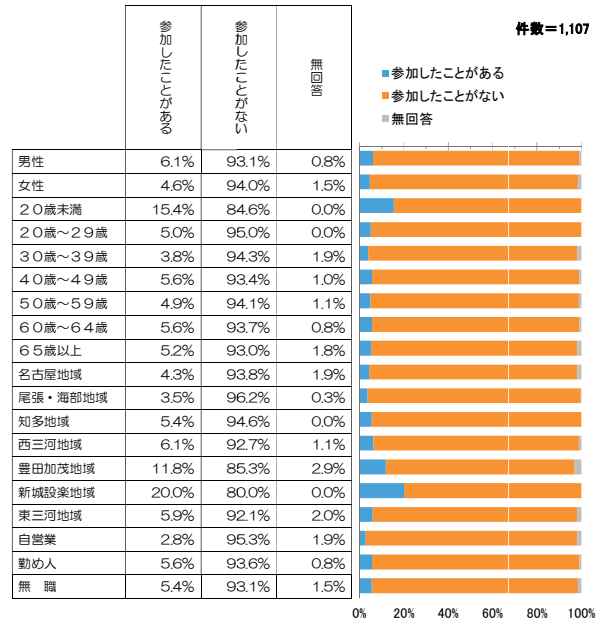
(2) 「森と緑の保全活動」や「環境学習」の参加の有無

問2 これまでに問1のような「森と緑の保全活動」や「環境学習」に参加したことがありますか。



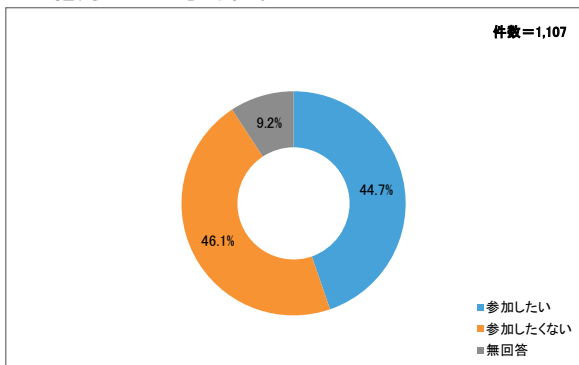
「森と緑の保全活動」や「環境学習」の参加の有無について、「参加したことがある」と答えた人の割合が5.1%であったのに対し、「参加したことがない」と答えた人の割合は93.5%となっている。

「森と緑の保全活動」や「環境学習」の参加の有無（性別、年齢別、地域別、職業別）



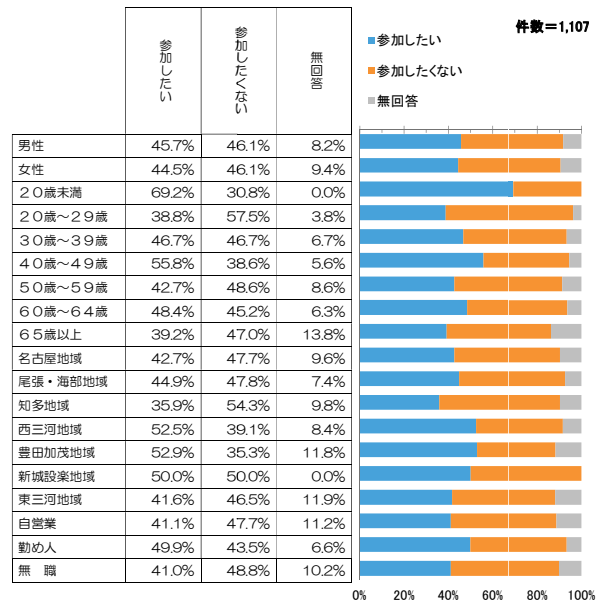
(3) 「森と緑の保全活動」や「環境学習」への参加について

問3 あなたの身の回りで問1のような「森と緑の保全活動」や「環境学習」が実施された場合、参加したいと思いませんか。



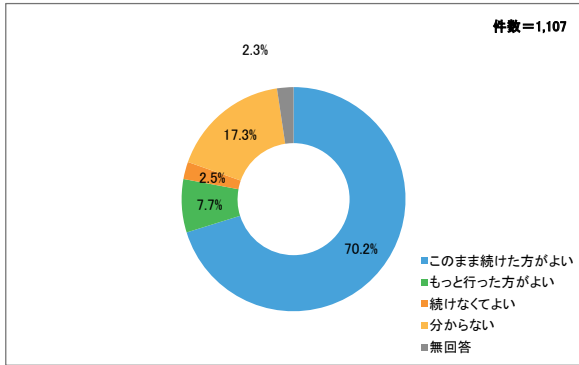
「森と緑の保全活動」や「環境学習」への参加について、「参加したい」と答えた人の割合が44.7%であったのに対し、「参加したくない」と答えた人の割合は46.1%となっている。

「森と緑の保全活動」や「環境学習」への参加について（性別、年齢別、地域別、職業別）



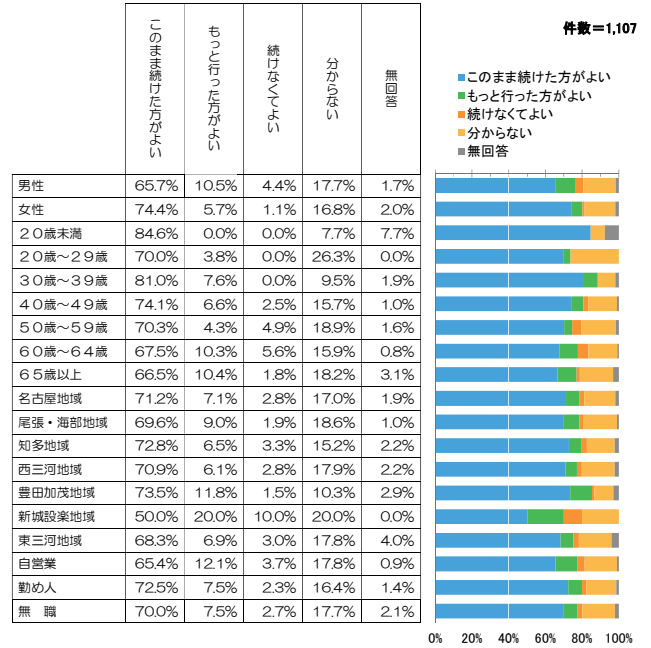
(4) 環境活動・学習推進事業の継続について

問4 あいち森と緑づくり事業で今後も「森と緑の保全活動」や「環境学習」を行う NPO やボランティア団体等の支援を続けた方がよいと思いますか。



環境活動・学習推進事業の継続について、「このまま続けた方がよい」(70.2%)と「もっと行った方がよい」(7.7%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が77.9%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は2.5%となっている。

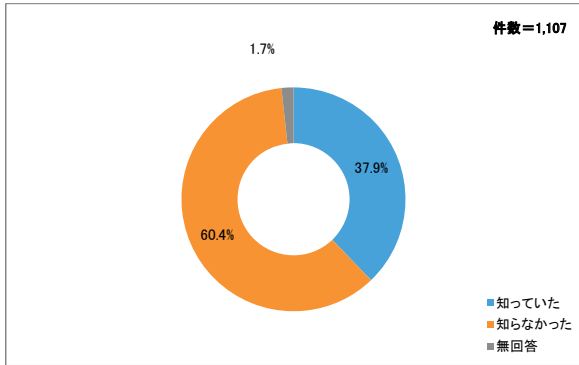
環境活動・学習推進事業の継続について (性別、年齢別、地域別、職業別)



VII 普及啓発事業について

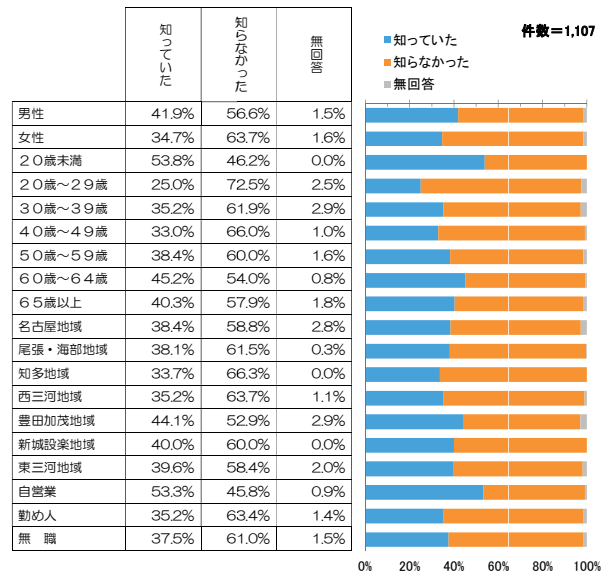
(1) 愛知県産木材の利用と森林整備との関連について

問1 愛知県産の木材製品を使うことが、地域の森林整備につながることを知っていましたか。



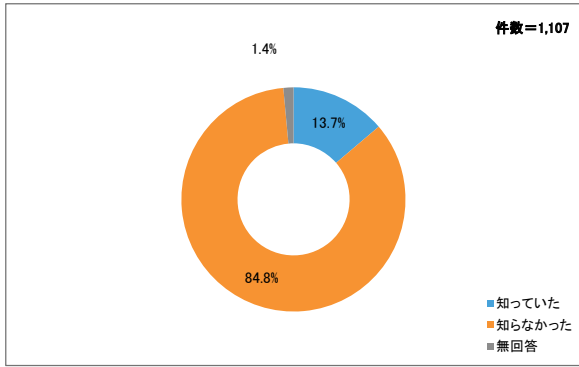
愛知県産木材の利用と森林整備との関連について、「知っていた」と答えた人の割合が37.9%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は60.4%となっている。

愛知県産木材の利用と森林整備との関連について (性別、年齢別、地域別、職業別)



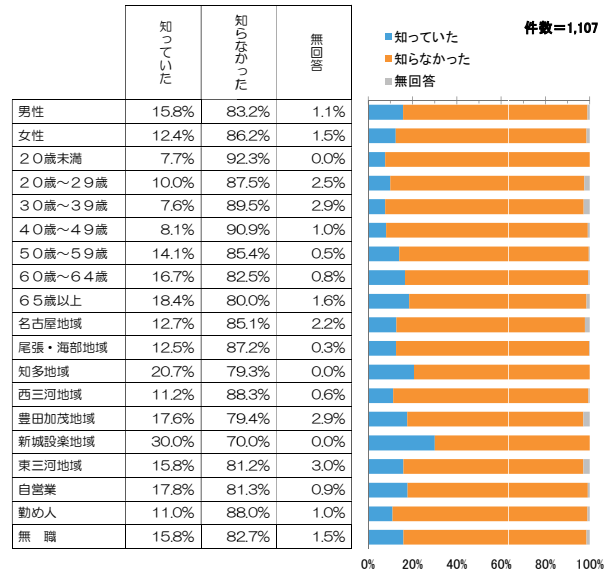
(2) 木の香る学校づくり推進事業の認知度

問2 あいち森と緑づくり事業で、公立小中学校に愛知県産木材を利用した机・椅子、下駄箱、ロッカーなどの導入を進めていることを知っていましたか。



木の香る学校づくり推進事業について、「知っていた」と答えた人の割合が 13.7%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は 84.8%となっている。

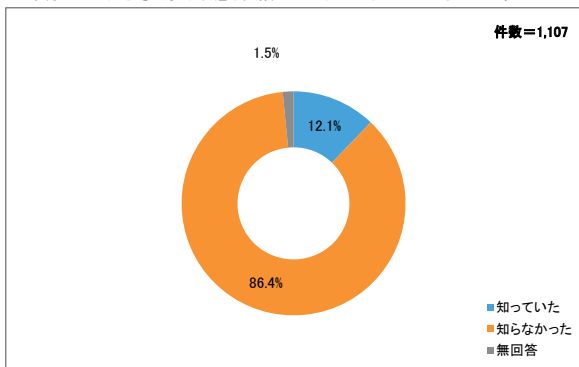
木の香る学校づくり推進事業の認知度（性別、年齢別、地域別、職業別）



0% 20% 40% 60% 80% 100%

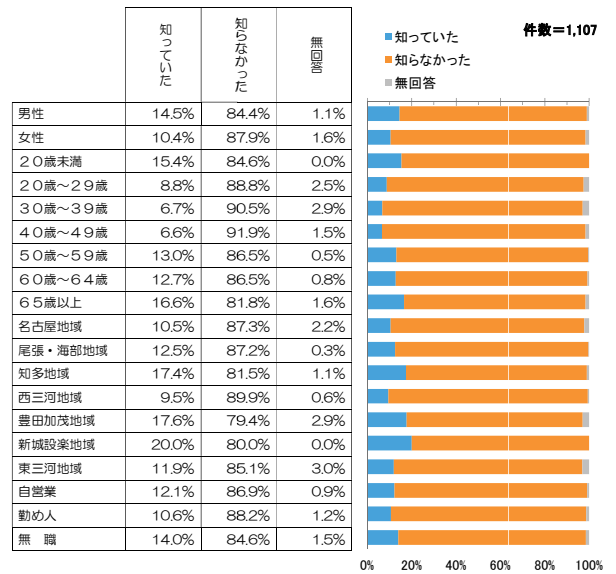
(3) 愛知県産木材活用推進事業の認知度

問3 あいち森と緑づくり事業で、間伐材の搬出を促進する取組や、公共施設に愛知県産木材のベンチを導入する取組を支援していることを知っていましたか。



愛知県産木材活用推進事業について、「知っていた」と答えた人の割合が 12.1%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は 86.4%となっている。

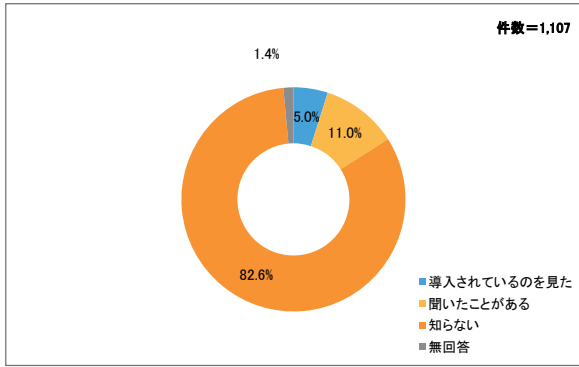
愛知県産木材活用推進事業の認知度（性別、年齢別、地域別、職業別）



0% 20% 40% 60% 80% 100%

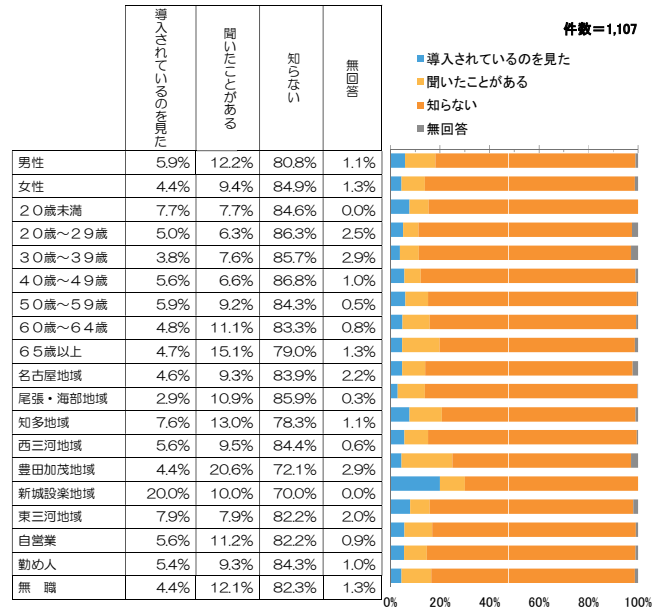
(4) 愛知県産木材製品の学校施設への導入状況

問4 あなたの周りの学校で愛知県産木材を使った机・椅子、下駄箱、ロッカー等が導入されていますか。



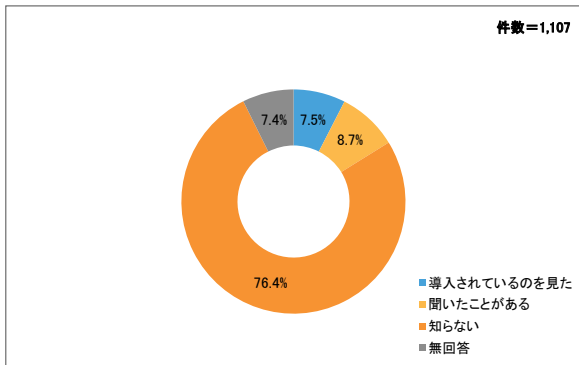
愛知県産木材製品の学校施設への導入状況について、「知らない」と答えた人の割合が82.6%と最も高く、続いて「聞いたことがある」(11.0%)、「導入されているのを見た」(5.0%)の順になっている。

愛知県産木材製品の学校施設への導入状況 (性別、年齢別、地域別、職業別)



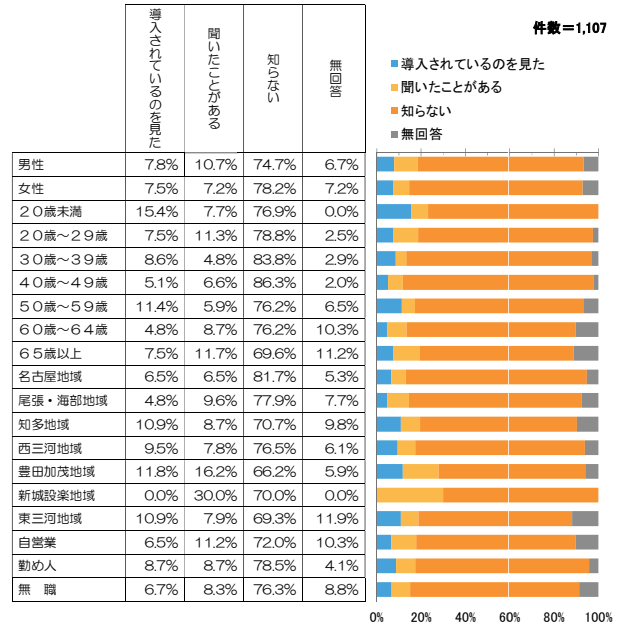
(5) 愛知県産木材製品の公共施設への導入状況

問5 あなたの周りの公共施設で愛知県産木材を使った木製ベンチが導入されていますか。



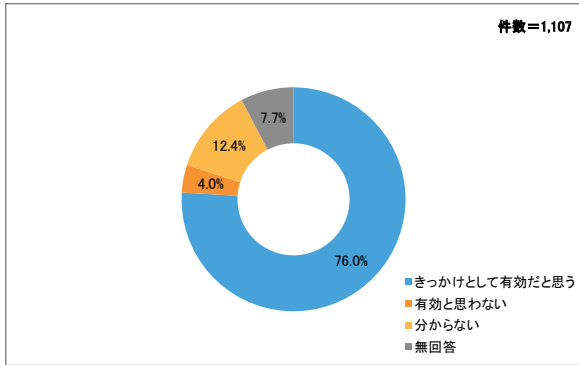
愛知県産木材製品の公共施設への導入状況について、「知らない」と答えた人の割合が76.4%と最も高く、続いて「聞いたことがある」(8.7%)、「導入されているのを見た」(7.5%)の順になっている。

愛知県産木材製品の公共施設への導入状況 (性別、年齢別、地域別、職業別)



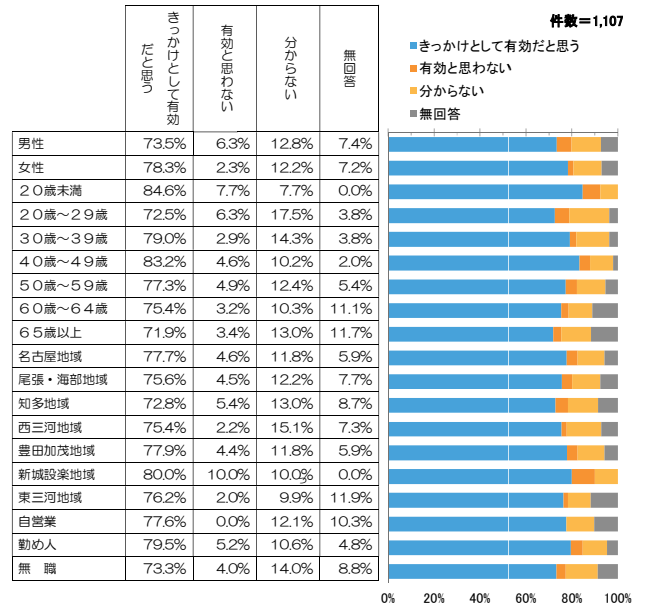
(6) 愛知県産木材製品の導入の有効性について

問6 愛知県産木材を使った机・椅子、下駄箱、ロッカー、ベンチなどの導入は、森林整備の意義や、木のあたたかさを知るきっかけとして有効だと思いますか。



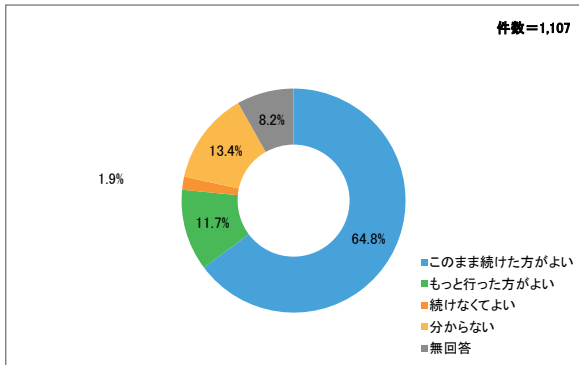
愛知県産木材製品の導入の有効性について、「きっかけとして有効だと思う」と答えた人の割合が76.0%であったのに対し、「有効と思わない」と答えた人の割合は4.0%となっている。

愛知県産木材製品の導入の有効性について（性別、年齢別、地域別、職業別）



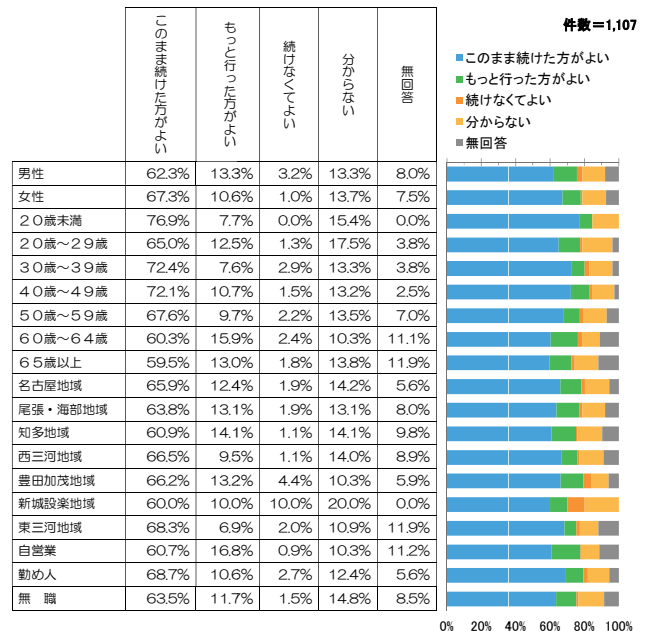
(7) 「あいち森と緑づくり事業」による愛知県産木材の利用促進・間伐材搬出促進の取組の継続について

問7 あいち森と緑づくり事業で、今後も学校や公共施設に愛知県産木材を使った机・椅子、下駄箱、ロッカー、ベンチ等を導入する取組や、間伐材の搬出を促進する取組への支援を続けた方がよいと思いますか。



あいち森と緑づくり事業による愛知県産木材の利用促進・間伐材搬出促進の取組の継続について、「このまま続けた方がよい」(64.8%)と「もっと行った方がよい」(11.7%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が76.5%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は1.9%となっている。

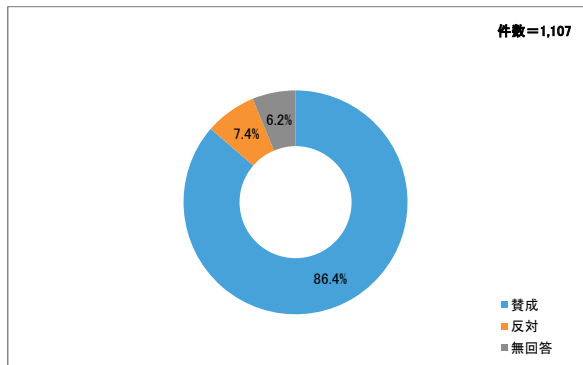
「あいち森と緑づくり事業」による愛知県産木材の利用促進・間伐材搬出促進の取組の継続について（性別、年齢別、地域別、職業別）



Ⅶ 「あいち森と緑づくり事業」の今後について

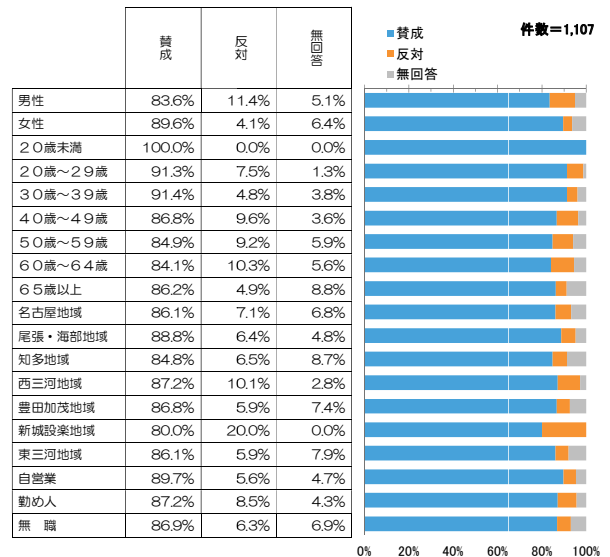
(1) 「あいち森と緑づくり事業」の継続について

問1 平成31年度以降も「あいち森と緑づくり税」を継続して、森と緑を守り育てる取組を行うことについてどのように思いますか。



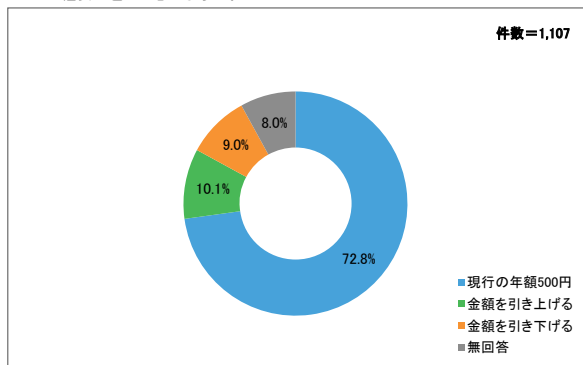
「あいち森と緑づくり事業」の継続について、「賛成」と答えた人の割合が86.4%であったのに対し、「反対」と答えた人の割合は7.4%となっている。

「あいち森と緑づくり事業」の継続について（性別、年齢別、地域別、職業別）



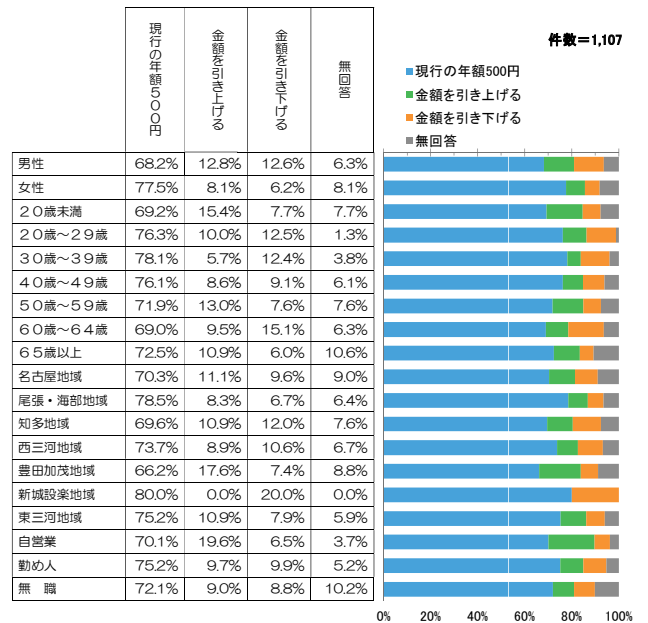
(2) 「あいち森と緑づくり税」の負担額について

問2 「あいち森と緑づくり税」を平成31年度以降も継続する場合、個人の方の負担はどの程度が適当だと思いますか。



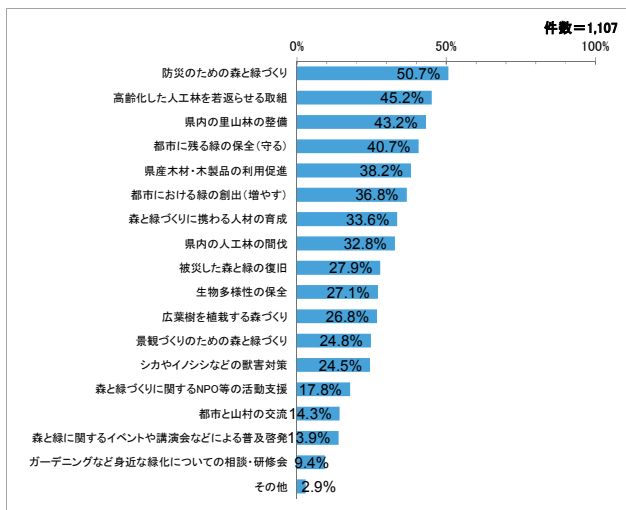
「あいち森と緑づくり税」の負担額について、「現行の年額500円」と答えた人の割合が72.8%と最も高く、続いて「金額を引上げる」(10.1%)、「金額を引き下げる」(9.0%)の順になっている。

「あいち森と緑づくり税」の負担額について（性別、年齢別、地域別、職業別）



(3)「あいち森と緑づくり事業」を継続した場合の取組について

問3 「あいち森と緑づくり事業」を平成31年度以降も継続する場合、どのような取組を行えばよいと思いますか。



「あいち森と緑づくり事業」を継続した場合の取組について、「防災のための森と緑づくり」と答えた人の割合が50.7%と最も高く、続いて「高齢化した人工林を若返らせる取組」(45.2%)、「県内の里山林の整備」(43.2%)の順になっている。

(2) 法人アンケート

1 調査の概要

(1) 調査目的

あいち森と緑づくり税・事業の事業評価のために、法人の事業に対する有効性・満足度・今後の期待度等の把握をし、調査分析を行い、今後の税・事業の在り方について検討するための基礎資料とする。

(2) 調査の項目

- ① 森と緑の働きについて
- ② 「あいち森と緑づくり事業」について
- ③ 「あいち森と緑づくり事業」の今後について

(3) 調査の設計

- ① 調査地域 愛知県
- ② 調査対象 県内の法人事業者
- ③ 標本数 150
- ④ 抽出方法 等間隔抽出法
- ⑤ 調査方法 郵送法
- ⑥ 調査期間 平成29年7月19日～8月2日

(4) 調査委託先

合同会社KURIO

(5) 回収結果

- ① 標本数 150
- ② 回収数 36 (24.0%)

(6) 調査対象者の属性

【資本金等の額】

1千万円超 1億円以下	左記以外の法人	非課税	未回答
10	21	3	2

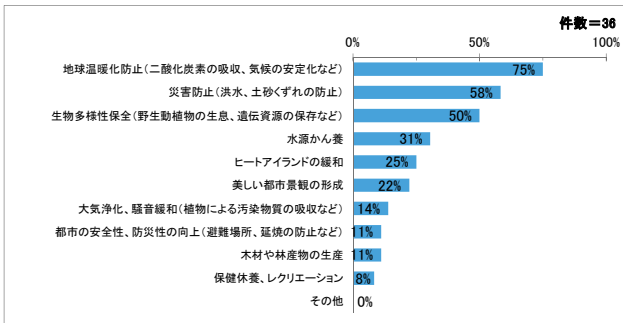
調査結果

1

I 森と緑の働きについて

(1) 森と緑の重要な働きについて

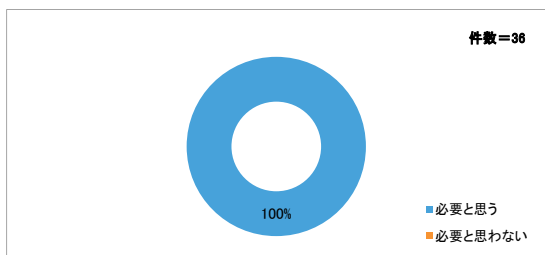
問1 森や緑の働きの中で、どのような働きが重要だと思いますか。



森と緑の重要な働きについて、「地球温暖化防止」と答えた人の割合が75%と最も高く、続いて「災害防止」(58%)、「生物多様性保全」(50%)の順になっている。

(2) 健全な森や緑を後世に引き継ぐことの必要性について

問2 将来に向けて健全な森と緑を引き継いでいくことについて、必要と思いますか。



健全な森や緑を後世に引き継ぐことの必要性について、「必要と思う」と答えた法人の割合が100%となっている。

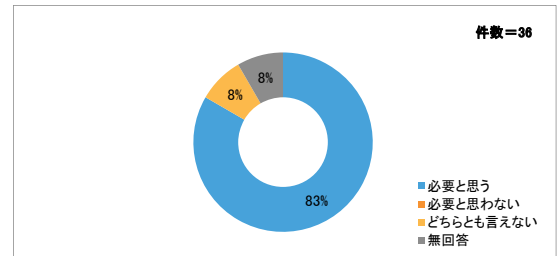
3

II 「あいち森と緑づくり事業」について

(1) 取組の必要性について

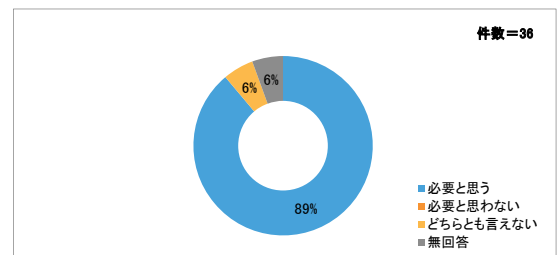
問3 森林、里山林、都市の緑をバランスよく整備・保全するための以下の取組について、必要だと思いますか。

①人工林の間伐



人工林の間伐の必要性について、「必要と思う」と答えた法人の割合が83%であったのに対し、「どちらとも言えない」と答えた法人の割合は8%となっている。

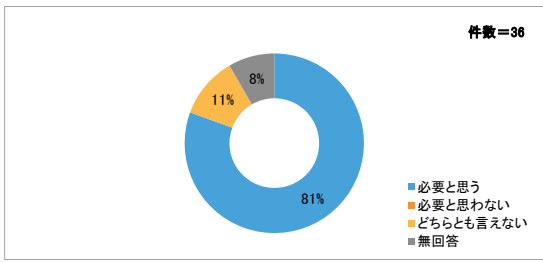
②里山林の整備



里山林の整備の必要性について、「必要と思う」と答えた法人の割合が89%であったのに対し、「どちらとも言えない」と答えた法人の割合は6%となっている。

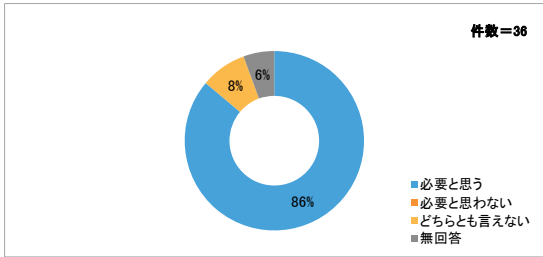
4

③都市緑化の推進



都市緑化の推進の必要性について、「必要と思う」と答えた法人の割合が81%であったのに対し、「どちらとも言えない」と答えた法人の割合は11%となっている。

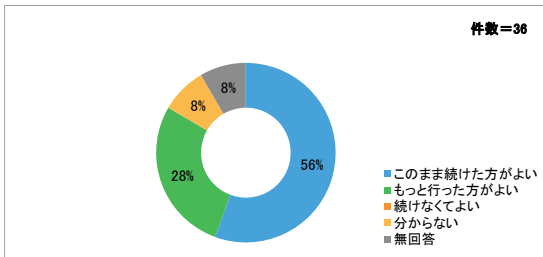
④環境活動・環境学習の推進



環境活動・環境学習の推進の必要性について、「必要と思う」と答えた法人の割合が86%であったのに対し、「どちらとも言えない」と答えた法人の割合は8%となっている。

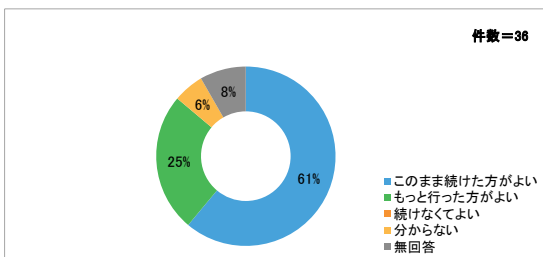
5

③都市緑化の推進



都市緑化の推進の継続について、「このまま続けた方がよい」(56%)と「もっと行った方がよい」(28%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた法人の割合が84%となっている。

④環境活動・環境学習の推進



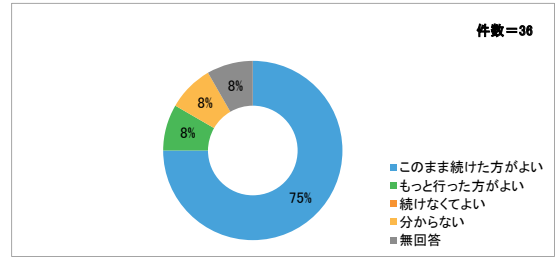
環境活動・環境学習の推進の継続について、「このまま続けた方がよい」(61%)と「もっと行った方がよい」(25%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた法人の割合が86%となっている。

7

(2) 取組の継続について

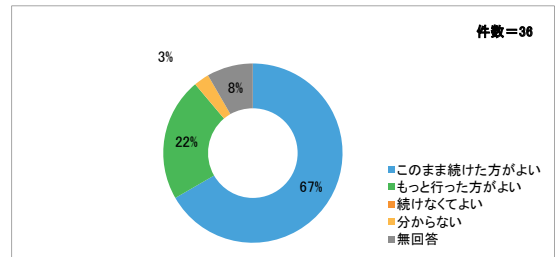
問4 本県では、平成21年度から「あいち森と緑づくり税」を活用し、以下の取組を行っています。これらの取組を今後も続けた方がよいと思いますか。

①人工林の間伐



人工林の間伐の継続について、「このまま続けた方がよい」(75%)と「もっと行った方がよい」(8%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた法人の割合が83%となっている。

②里山林の整備



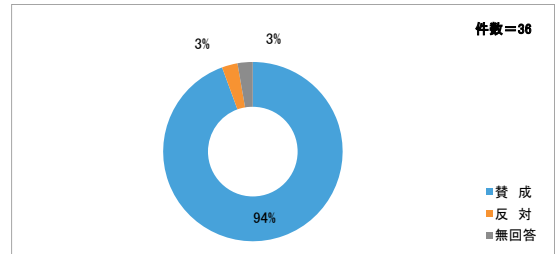
里山林の整備の継続について、「このまま続けた方がよい」(67%)と「もっと行った方がよい」(22%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた法人の割合が89%となっている。

6

III 「あいち森と緑づくり事業」の今後について

(1) 「あいち森と緑づくり事業」の継続について

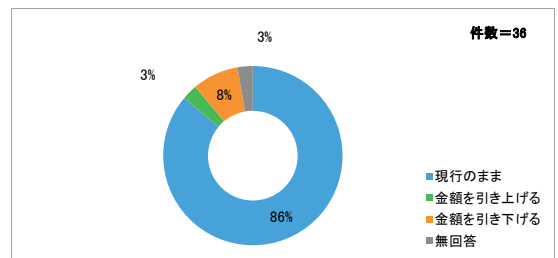
問5 平成31年度以降も「あいち森と緑づくり税」を継続して、森と緑を守り育てる取組を行うことについてどのように思いますか。



「あいち森と緑づくり事業」の継続について、「賛成」と答えた法人の割合が94%であったのに対し、「反対」と答えた法人の割合は3%となっている。

(2) 「あいち森と緑づくり税」の負担額について

問6 「あいち森と緑づくり税」を平成31年度以降も継続する場合、法人の方の負担はどの程度が適当だと思いますか。

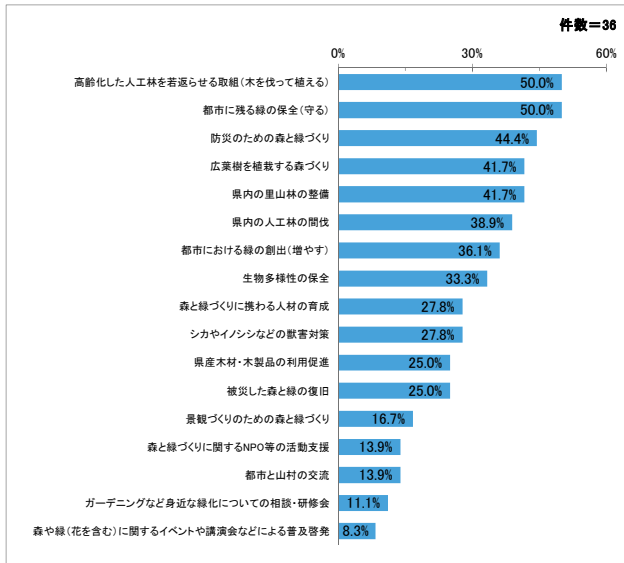


「あいち森と緑づくり税」の負担額について、「現行のまま」と答えた法人の割合が86%と最も高く、続いて「金額を引き下げる」(8%)、「金額を引き上げる」(3%)の順になっている。

8

(3)「あいち森と緑づくり事業」を継続した場合の取組について

問7 「あいち森と緑づくり事業」を平成31年度以降も継続する場合、どのような取組を行えばよいと思いますか。



「あいち森と緑づくり事業」を継続した場合の取組について、「高齢化した人工林を若返らせる取組」と「都市に残る緑の保全」と答えた法人の割合が50.0%と最も高く、続いて「防災のための森と緑づくり」(44.4%)、「広葉樹を植栽する森づくり」(41.7%)、「県内の里山林の整備」(41.7%)の順になっている。